

令和八年度 東京純心大学 看護学部 看護学科

一般選抜試験（1期B日程）【国語】試験問題

試験時間 60分 問題は1～7ページ

注意事項

- ・ 解答は、すべて解答用紙に記入すること。
- ・ 問題用紙は、試験終了後回収する。

受験番号

令和8年2月2日

□ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。

女性というだけで仕事上の不利益を(ア)被る。こんな(A)理不尽な現状の是正につなげたい。

今年のノーベル経済学賞に米国の研究者、クラウディア・ゴールドインさんが選ばれた。男女の賃金格差を生んでいる構造的な

① ヨウインを解き明かした。

世界で高まるジェンダー平等の機運を後押しすることが期待される。女性の単独受賞は初めてだ。

以前は経済が成長すれば女性の就業率も高まり、格差は縮小するとの学説が一般的だった。だが米国の過去200年の統計を精査し、そうした単純な見方を②クツガエした。

明らかにしたのは、「チャイルドペナルティー」と呼ばれ、出産後に女性の賃金が減る現象だ。

経済成長に伴い、男女が同じ教育を受けて同じ職業に(イ)就けるようになって、子どもが生まれると賃金に差が生じる。女性は育児の責任を負わされてキャリアを積む機会が減る一方、長時間働ける男性は③ユウグウされる。問題は先進国に共通することを突き止めた。

今回の受賞決定は格差の大きい日本への④ケイショウだ。経済協力開発機構(OECD)の調査では、女性の賃金は男性の78%にとどまり、45カ国・地域で下から4番目だ。

女性の就業率は7割超と米国などを上回る。だが企業が人手不足を補うために採用するケースが目立ち、補助的な業務が多い。雇用も不安定な非正規労働が5割を超え、正社員でも管理職は少ない。

働く女性が増えても低賃金のままなら、男女平等とは到底言えない。ゴールドインさんは受賞発表後の記者会見で日本について「女性を労働力として働かせるだけでは解決にならない」と強調した。

日本では性別による役割分担意識が根強い。残業を評価する(B)風潮も残る。女性に不利な環境を(ウ)抜本的に見直さなければならぬ。

企業は長時間労働の是正など働きやすい体制を整える必要がある。女性の正社員化や管理職登用も急務だ。男性に育児休業取得を促す仕組みの拡充も求められる。

岸田文雄首相は看板政策に掲げる「新しい資本主義」の中核に女性の経済的自立を位置付けている。賃金格差の開示を企業に義務づけたが、不十分だ。男女平等の達成に向け、⑤ジツコウ性のある政策をさらに講じるべきだ。

(〔社説〕「賃金格差とノーベル賞」、『毎日新聞』二〇二三年一〇月一四日による)

設問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直し、(ア)～(ウ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(送りがなを記す必要はない。)

- ① ヨウイン                      ② クツガエ(した)                      ③ ユウグウ                      ④ ケイショウ                      ⑤ ジツコウ  
(ア) 被(る)                      (イ) 就(ける)                      (ウ) 抜本的

設問二 傍線部(A)・(B)の言葉の意味を簡潔に記しなさい。

- (A) 理不尽                      (B) 風潮

設問三 本文をもとにゴールドイン氏の業績についてまとめた以下の文章のうち、空欄(1)・(2)には本文から指定された字数を抜き出し、(3)・(4)には適切に言葉を入れなさい。なお抜き出す際は句読点も一字と数える。また(3)・(4)は順序を問わない。

ゴールドイン氏の研究業績について

調査対象……米国の過去200年の統計

← 精査の結果

「(1) 26字」という単純な見方は間違っていると判明

さらに「(2) 14字」を解明

←

すなわち、女性の方が……

\* 育児の責任を負わされがち

\* (3)

\* (4)

#### 設問四

日本の場合の問題点について、本文をもとにまとめた以下の文章の空欄 a ～ d に、それぞれ適切な数字を入れなさい。

日本における女性の賃金は、OECDの調査によれば、男性の a 割弱であり、これは45カ国・地域の中で b 位である。就業率自体は米国などより多く c 割を超えるにもかかわらず、補助的な業務が多いこと、d 割超の雇用形態は非正規労働であること、正社員でも管理職が少ないことなども明らかである。

□ 次の文章を読み、以下の設問に答えなさい。なお、リード文とは、新聞記事で本文に入る前の、概略紹介の文章である。

(リード文) 人生の約3分の1は睡眠に費やされる。睡眠や覚醒(目覚め)に関する研究は進んでいるが、「なぜ眠くなるのか」という根源的な疑問は解決していない。睡眠研究で世界をリードする筑波大国際統合睡眠医科学研究機構長の柳沢正史教授(神経科学)(63)の成果から、睡眠研究の(A)最前線を探った。

柳沢氏は1998年、睡眠と覚醒を調整する脳内の神経伝達物質「オレキシン」を発見した。オレキシンが①ケツボウすると、強い眠気に襲われる病氣「ナルコレプシー」を引き起こすことを突き止め、昨年、ブレイクスルー賞(生命科学部門)に選ばれた。同賞は、山中伸弥・京都大教授や大隅良典・東京工業大名誉教授ら日本のノーベル賞受賞者も受賞している。

オレキシンの発見は、偶然だったという。米テキサス大教授時代、同僚と一緒に、動物の脳の(A)抽出物から未知の物質を見つけた。食欲に係る視床下部にあったことから、柳沢氏らは、ギリシャ語で「食欲」を意味するオレキシンと名付けた。

さっそく遺伝子②ソウサでオレキシンを作れなくしたマウスの行動を観察してみた。しかし、食べる量はわずかに減ったが、体重は増え気味だった。

一方で、予想外の変化が起きた。元気に活動していたマウスが突然倒れて動かなくなり、数十秒後に再び目を覚ましたのだ。原因不明とされていたナルコレプシーによく似た症状だった。柳沢氏らは、オレキシンが受容体と呼ばれるたんぱく質に結合すると、脳から覚醒を促すような信号が出ることを突き止めた。

ナルコレプシーの治療薬は開発中だが、オレキシンと受容体の結合を③サマタげること、覚醒作用を抑える睡眠薬はすでに実用化されている。

\* \* \*

オレキシンの発見以降、睡眠研究を本格化させた柳沢氏は、睡眠に係る遺伝子やたんぱく質を探し始めた。ランダムな遺伝子変

異を起こすなどした約1万匹のマウスで1匹ずつ脳波を分析し、睡眠異常のあるマウスに共通した2種類の原因遺伝子を(B)特定し、2016年に発表した。

さらに18年には、原因遺伝子などから作られる約80種類のたんぱく質が、眠気に深く関わっていることを、マウスで突き止めた。これらのたんぱく質には、マウスの眠気が高まった時にリン酸がくっつく「リン酸化」が起き、マウスが眠るとリン酸が離れた。

22年には、このリン酸化が脳の大脳皮質で起きると「深い眠り」となり、視床下部で起きると「長い眠り」になることを確認した。睡眠の「質」と「量」は脳の1か所ではなく、別々の部位で(イ)制御されている可能性が示された。

\* \* \*

通常、リン酸化が起きると、たんぱく質は構造が変わり、その役割にも変化が起きる。ただし、なぜリン酸化が起きると眠くなるのか、睡眠の質と量が異なる場所で制御されているのかなどはわかっていない。

柳沢氏は、睡眠研究の現状を登山にたとえ、「(樹木が密生する上限の)『森林限界』にもまだ来ていない」と強調する。将棋の藤井聡太竜王が22年に最年少五冠を達成した際、自身の所在地は富士山の何合目かという質問に答えた言葉を引用したものだ。

「動物にとって敵から襲われるリスクもある睡眠という行為がなぜ必要なのか、睡眠時間はどうやって決まっているのか」。睡眠の謎の解明という「山頂」を目指し、柳沢氏らの研究は続く。

\* \* \*

人の生体リズムは、脳の視床下部の「視交叉上核」（しこうさじょうかく）などにある体内時計の影響を受けている。体内時計は、遺伝や加齢、疾患、ストレス、光環境など様々な影響を受けるが、遺伝と加齢が睡眠に大きく関係していることがわかってきた。

遺伝子④（ハイレット）のわずかな違いが、「朝型」や「夜型」といった生活パターンに影響している可能性を示す研究は多い。筑波大国際統合睡眠医科学研究機構の平野有沙助教（時間生物学）は「早起きの得意、不得意は、遺伝によって決まっている場合も多い。必ずしも怠けているわけではない」と指摘する。

また加齢についての研究では、人は20歳前後で最も夜型になり、その後は加齢とともに朝型の傾向を示すようになるという。学校の

⑤ シギョウ時間をいつもより約1時間遅らせると、生徒の成績が上がったり、授業中に眠気を(ウ) 催す生徒が減少したりしたという研究成果がある。平野助教は「睡眠研究の進展に、社会の側が合わせていくことも大切だ」と話す。

(前村尚「睡眠・覚醒のメカニズム探究」、『読売新聞』二〇二三年九月一七日による)

設問一 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直し、(ア)～(ウ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。(送りがなを記す必要はない。)

- ① ケツボウ                      ② ソウサ                      ③ サマタ(げる)                      ④ ハイレッツ                      ⑤ シギョウ
- (ア) 抽出                      (イ) 制御                      (ウ) 催(す)

設問二 傍線部(A)(B)の言葉の意味を簡潔に記しなさい。

- (A) 最前線                      (B) 特定

設問三 本文の記述をもとに、簡単な表を2つ作成してみた。空欄(1)～(6)に適切な言葉を入れて埋めなさい。

健常者	オレキシン(○) + 受容体	↓(1)
ナルコレプシー	オレキシン(×) + 受容体	↓(2)

「リン酸化」が……

(5)	(3)	起きる場所
(6)	(4)	眠り方
「量」	「質」	眠りのくにかかわる

設問四 睡眠に関する研究によりわかってきたことと、まだ解明されていない課題について、以下のようにまとめてみた。本文をもとに、空欄 a ～ c に適切な言葉を入れなさい。なお b と c は順序を問わない。

わかってきたこと

- ・ 遺伝子ハイレツのわずかな違いが生活パターンに影響している可能性がある
- ・ 加齢と睡眠については a 傾向がある

未解明の課題

- ・ b
- ・ なぜ睡眠の質と量が異なる場所で制御されているのか
- ・ c
- ・ 睡眠時間はどうやって決まっているのか